

令和4年度

川口市教育委員会事務点検・外部評価報告書

(令和3年度実施事業)

川口市教育委員会

## も く じ

### ■ はじめに

1 趣 旨	—	1
2 目 的	—	1
3 外部評価の対象	—	1
4 外部評価の方法	—	1
5 評 価	—	1
6 外部評価結果	—	2
7 今後の取り組み	—	2
8 令和4年度外部評価委員	—	2

### ■ 令和4年度評価結果一覧

	—	3
--	---	---

### ■ 事務点検・外部評価調書

	—	4
--	---	---

#### 基本目標 I

指標(1) 埼玉県学力・学習状況調査において県平均を上回る項目数	—	5
指標(2) 英語教育実施状況調査において中学校第3学年における CEFR A1 (英検3級) レベル相当以上の英語力を 有すると思われる生徒数の割合	—	7
指標(3) 特別支援学級設置校数	—————	9
指標(4) 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	———	1 1
指標(5) 全国学力・学習状況調査の質問紙のうち、 自尊感情、規範意識を示す割合	—————	1 3
指標(6) 各学年において「人権感覚育成プログラム」を 活用した割合	—————	1 5
指標(7) 小児生活習慣病予防検診受診率の割合	—————	1 7
指標(8) 体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合 (小学校6年生、中学校3年生)	—————	1 9
指標(9) 高等学校卒業後、大学への進学者と国公立大学進学者の割合	———	2 1

## 基本目標Ⅱ

指標(1)	教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合	—	2 3
指標(2)	いじめの解消率	—————	2 5
指標(3)	不登校児童生徒の割合	—————	2 7
指標(4)	不登校児童生徒への指導の結果、 好ましい変化がみられた割合	—————	2 9
指標(5)	地域の方に勉強や運動を教えてもらっていると 感じている児童の割合(小6)	—————	3 1
指標(6)	地域・社会をよりよくするための参画意識(中3)	—————	3 3
指標(7)	各学校における「学校応援団平均活動回数」(年間)	—————	3 5
指標(8)	放課後子供教室の実施校数	—————	3 7

## 基本目標Ⅲ

指標(1)	生涯学習施設の年間利用者数 ※南平文化会館を除く	—————	3 9
指標(2)	公民館及び専門施設の年間講座参加者数	—————	4 1
指標(3)	図書館年間利用者数(入館者数)	—————	4 3
指標(4)	科学館の年間利用者数	—————	4 5
指標(5)	スポーツ施設の年間利用者数	—————	4 7
指標(6)	文化芸術事業に携わる団体・個人の数	—————	4 9

## 基本目標Ⅳ

指標(1)	文化財センター及び分館への年間来館者数	—————	5 1
指標(2)	古文書・写真等資料の収蔵点数	—————	5 3

はじめに

## 1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。また、点検及び評価を行うに当たり、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

この報告書は、同法の規定に基づき、川口市教育委員会が行った事務点検・外部評価（以下「外部評価」という。）の結果をまとめたものです。

## 2 目 的

川口市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、効果的な教育行政の推進に資すること、並びにその結果を公表し市民への説明責任を果たしていくことを目的としています。

## 3 外部評価の対象

川口市教育委員会では、本市の教育の振興を総合的かつ計画的に推進していくための指針である「川口市教育大綱」に基づいて、「川口市教育振興基本計画」を策定しました。計画の推進にあたりましては、25の指標を掲げており、この指標を外部評価の対象としました。

## 4 外部評価の方法

25項目の評価指標に対する内部評価に基づき、外部評価会議において、学識経験者等からの評価を受けました。

## 5 評 価

「令和3年度の実施状況」、「令和4年度以降の取り組み」及び「指標の達成状況」の内容等を総合的に判断し、次のA～Dの4つの区分としました。

「A」…基本目標の目的実現に向けて3年度の目標は達成されている。

「B」…基本目標の目的実現に向けて3年度の目標は概ね達成されている。

「C」…上記Bと比較して達成状況は低い。

「D」…基本目標の目的実現に向けて3年度の目標はほとんど達成されていない。

## 6 外部評価結果

外部評価結果では、全25指標の内、「A：達成されている」との評価が7指標、「B：概ね達成されている」との評価が12指標、「C：達成状況は低い」との評価が6指標でありました。

## 7 今後の取り組み

川口市教育委員会では、今回の結果及び意見等をふまえ、本市教育行政のさらなる発展を目指し、具体的な取り組みを進めていきます。

## 8 令和4年度外部評価委員

(50音順 敬称略)

氏名	備考
朝倉雄馬	川口市PTA連合会 会長
久保村里正	文教大学 教育学部 教授
松田裕之	川口市退職校長会 幹事

# 令和4年度 評価結果一覧

基本目標No.	指標No.	指標名	主管課	令和4年度								
				内部評価（職員における評価）				外部評価				
				（A）達成されている	（B）概ね達成されている	（C）達成状況は低い	（D）ほとんど達成されていない	（A）達成されている	（B）概ね達成されている	（C）達成状況は低い	（D）ほとんど達成されていない	
基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり												
Ⅰ	(1)	埼玉県学力・学習状況調査において県平均を上回る項目数	指導課	○					○			
	(2)	英語教育実施状況調査において中学校第3学年におけるCEFR A1（英検3級）レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合	指導課	○					○			
	(3)	特別支援学級設置校数	指導課	○					○			
	(4)	将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	指導課		○					○		
	(5)	全国学力・学習状況調査の質問紙のうち、自尊感情、規範意識を示す割合	指導課		○					○		
	(6)	各学年において「人権感覚育成プログラム」を活用した割合	指導課		○					○		
	(7)	小児生活習慣病予防検診受診率の割合	学校保健課	○					○			
	(8)	体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合（小学校6年生、中学校3年生）	指導課		○					○		
	(9)	高等学校卒業後、大学への進学者と国公立大学進学者の割合	指導課		○					○		
基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり												
Ⅱ	(1)	教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合	指導課		○				○			
	(2)	いじめの解消率	指導課			○					○	
	(3)	不登校児童生徒の割合	指導課			○					○	
	(4)	不登校児童生徒への指導の結果、好ましい変化がみられた割合	指導課			○					○	
	(5)	地域の方に勉強や運動を教えてもらっていると感じている児童の割合（小6）	指導課	○					○			
	(6)	地域・社会をよりよくするための参画意識（中3）	指導課		○					○		
	(7)	各学校における「学校応援団平均活動回数」（年間）	生涯学習課			○					○	
	(8)	放課後子供教室の実施校数	生涯学習課			○					○	
基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり												
Ⅲ	(1)	生涯学習施設の年間利用者数 ※南平文化会館を除く	生涯学習課			○				○		
	(2)	公民館及び専門施設の年間講座参加者数	生涯学習課				○				○	
	(3)	図書館年間利用者数（入館者数）	中央図書館		○					○		
	(4)	科学館の年間利用者数	科学館		○					○		
	(5)	スポーツ施設の年間利用者数	スポーツ課		○					○		
	(6)	文化芸術事業に携わる団体・個人の数	文化推進室		○					○		
基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用												
Ⅳ	(1)	文化財センター及び分館への年間来館者数	文化財課			○				○		
	(2)	古文書・写真等資料の収蔵点数	文化財課	○					○			
計				6	11	7	1	7	12	6	0	

# 事務点検・外部評価調書

## 基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

### 指標(1) 埼玉県学力・学習状況調査において県平均を上回る項目数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
<p>埼玉県学力・学習状況調査において小学校4年生から中学校3年生までの国語、算数・数学及び英語の全項目数14項目の中で、埼玉県平均正答率を上回った項目数。 この数を把握することで本市の学力の定着度を測ることができると考えこの指標を設定した。</p>	<p>平成27年度は14項目のうち県平均を上回る項目が6項目のみに留まっていたが年々上回る項目数が徐々に増え、平成31年度は9項目で上回るに至った。今後、10項目以上で上回りそれを維持することをめざし、目標値を設定した。</p>	<p>全14項目のうち 9項目</p>	<p>全14項目のうち 10項目</p>	<p>22</p>

### 令和3年度の実施状況

①実施時期 R3. 4. 1～R4. 3. 31

②実施内容

- ・教育委員会では、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善のために、学校訪問（学力向上訪問）において、重点指導項目を設定して、指導助言を行った。また、教職員研修においては、コロナ禍においても切れ目なく研修を行えるよう、新しい生活様式に基づき、オンラインや分散形式等、実施方法を工夫することで、教職員の資質・能力を育成した。
- ・学校では、国及び県の学力調査等の結果を踏まえ、自校の課題を明確にし、指導計画や学力向上プランを改善した。また、教育課程の確実な実施に取り組んだ。

③実施結果

令和3年5月に実施した埼玉県学力・学習状況調査において、国語、英語の平均正答率は、どの学年においても埼玉県平均正答率を上回った。算数・数学の平均正答率は、小学校4年生、中学校2年生の2学年が埼玉県平均正答率を上回る結果となった。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
国語	○	○	○	○	○	○	○ 埼玉県平均正答率を上回った × 埼玉県平均正答率を下回った
算数・数学	○	×	×	×	○	×	
英語	○	○	○	○	○	○	

### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期 R4. 4. 1～R5. 3. 31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

- ・子どもが目の前の事象から、課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者と協働的に議論し、納得解を見いだすなど、学びの質を高めるこれまでにない大胆な授業改善（主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善）を推進する。特に、算数・数学については、学習指導要領の趣旨に即した問題発見を重視した授業が実践できるようにするため、「算数・数学の学習過程のイメージ」をもとにした授業改善につながるよう指導する。
- ・子どもや学校等の実態に応じて、各教科等の特質や学習過程を踏まえながら、教材・教具や学習ツールの1つとしてICTを効果的に活用する。
- ・令和3年度埼玉県学力・学習状況調査の結果について、学力差と学習方略及び非認知能力の差について分析し、授業改善につなげる。



集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	全14項目のうち 10項目	全14項目のうち 10項目	全14項目のうち 10項目	全14項目のうち 10項目	全14項目のうち 10項目
	全14項目のうち 10項目				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	<p>埼玉県学力・学習状況調査において、令和3年度の調査結果で、小学校4年生から中学校3年生までの国語、算数・数学及び英語の全項目数14項目の中で、埼玉県平均正答率を10項目上回った。令和2年度の調査結果より1項目上回り、目標を達成することができたことから、評価結果はAとする。</p> <p>国語の6項目、英語の2項目は全て県平均を上回ったが、算数・数学では小学校4年生から中学校3年生までの6項目のうち、県平均を上回ったのは小学校4年生と中学校2年生の2項目のみとなった。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>県平均を上回る項目数の実績値は、目標値に達していることから、評価結果はAとする。</p> <p>既に令和7年度の目標値を達成しているが、現状維持に満足せず、より学力を高める取り組みを考えてもらいたい。</p> <p>また、算数・数学が多く学年で県平均を下回っているが、担当の指導主事を増員して要請訪問の回数を増やすなど、指導力の向上に力を入れている様子が伝わってくるので、これからの成果に結びつくことを期待している。</p>
	前回評価	

## 基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

### 指標(2) 英語教育実施状況調査において中学校第3学年におけるCEFR A1(英検3級)レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
<p>中学校第3学年におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合。</p> <p>生徒のコミュニケーション能力を高める外国語教育を充実させることにより、グローバル化に対応した国際社会に貢献できる人材を育成することが重要であることからこの指標を設定した。</p>	<p>グローバル人材の育成には、生徒の着実な英語力向上をめざしたPDCAサイクルを構築した英語教育の改善を行うことが重要である。そこで、義務教育最終学年の中学校第3学年において、CEFR A1(英検3級)レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数を、政府の目標値以上の70パーセントに設定し、取り組むこととした。</p>	37.8%	70%	26

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	<p>令和3年度全面実施の中学校学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善のため、全国各地で成果をあげている「5ラウンドシステム」指導法を軸とした授業を中学校全27校の第1学年で開始した。本システムの効果的な運用のため、開始前年度(令和2年度)に、全英語科教員を対象とした研修会を4回実施し、令和3年度は、学校訪問における指導やワークシート等の提供、教職員研修(年3回)及び研究授業を通して支援を行った。さらに、効果検証の手立てとして「GTEC研修事業」を実施し、第1学年の全生徒に対して、4技能の英語力を測る「スコア型検定試験」を行った。</p>
③実施結果	<p>令和3年12月実施『令和3年度公立中学校における英語教育実施状況調査(文部科学省)』において、中学校第3学年におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合は、43.6%となり、前年度の36.7%を6.9%上回る結果となった。なお、「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数」とは、実際に外部検定試験のCEFR A1レベル相当以上の級、スコア等を取得している生徒及び、それらに相当する英語力を有していると思われる生徒の人数を指す。</p>

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業改善は生徒の学力向上につながる手立てであるため、令和4年度は、中学校第1学年及び第2学年において、「5ラウンドシステム」指導法を軸とした授業改善を実施する。</li> <li>・令和3年度に引き続き、教職員研修(全3回)や研究授業等を通して、教員の指導力向上への支援を行う。</li> <li>・2年間の効果検証のため、令和4年度GTEC研修事業は、第2学年で実施する。また、本事業は、生徒の英語力の伸びを測ることに加えて、「教員の授業改善」を支援することを目的として行っていることから、事前・事後研修会における教員への指導と支援の充実を図る。</li> </ul>

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	40%	50%	60%	65%	70%
	43.6%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	『令和3年度公立中学校における英語教育実施状況調査（文部科学省）』において、中学校第3学年における「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数」の割合が、目標値40%を3.6%上回ったことから、評価結果はAとする。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合の実績値は、目標値を上回っていることから、評価結果はAとする。 5ラウンドシステムなど、様々な授業改善により生徒の英語力向上を目指す取り組みは評価できる。 今後は、指導する教員の能力向上も重要だと考えられるため、各種研修会の充実などにも、より一層力を入れてもらいたい。
	前回評価	

## 基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

### 指標(3) 特別支援学級設置校数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
<p>小・中学校における特別支援学級設置校数。</p> <p>国や県のインクルーシブ教育システム構築の政策のひとつに、「多様な学びの場」の充実があげられている。特別な支援を必要とする児童生徒が地元の小・中学校で学ぶ環境を作るためにも、特別支援学級の設置促進は重要であることからこの指標を選定した。</p>	<p>川口市は拠点校方式により、特別な支援を必要とする児童生徒が、課題克服に向けて少人数で効果的に学ぶことをめざしている。インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育を推進するためにも設置率70%をめざして、今後も適正規模、適正配置をめざし計画的に設置を進めていく。</p>	<p>小学校21校 中学校12校</p>	<p>小学校40校 中学校15校</p>	32

### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	<p>令和3年度については小学校8校に特別支援学級を新設した。設置にあたっては、該当の小学校長から聞き取りや、適宜学校訪問を行い、特別支援学級の設置に向けた施設・設備面や教育経営面に関する配慮事項について指導を行い、円滑な設置に努めた。人材育成については、令和3年度より「特別支援教育理解研修会」・「特別支援学級新設校研修」を新規研修会として開催し、特別支援教育の理解促進、人材育成に努めることができた。</p>
③実施結果	<p>令和3年度については小学校8校に特別支援学級を新設した。特別支援学級の設置校は、小学校30校、中学校13校となり、設置率は、小学校が57.7%、中学校が50%となった。</p> <p>○令和3年度の特別支援学級設置校 芝南小学校・神根東小学校・柳崎小学校・根岸小学校・新郷東小学校・安行東小学校・戸塚北小学校・木曾呂小学校</p>

### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>特別支援学級の新設については、教室と人材の確保が課題となっている。教室の確保については、引き続き、特別支援学級在籍児童生徒数の推移を注視しながら、設置予定校と十分に連携を図りつつ、計画的に設置を進める。人材の確保については、研修会の中身をさらに充実させ、市内教職員の特別支援教育の理解促進に努める。</p>

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	小学校26校 中学校13校	小学校30校 中学校14校	小学校34校 中学校14校	小学校38校 中学校15校	小学校40校 中学校15校
	小学校30校 中学校13校				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	令和3年度は、新たに小学校8校に特別支援学級を設置し、設定した目標値を達成することができた。今後も引き続き、小集団での活動機会を確保し、対象となる児童生徒数の推移や通学距離の適正化を勘案しながら設置への取り組みを進める。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	特別支援学級設置校数の実績値は、目標値を上回っていることから、評価結果はAとする。 設置校数が増加すると、教員の養成と確保が、さらに大きな課題となってくるのではないかと懸念している。 特別支援学級の指導の質を低下させないため、関係各課と連携を図りながら、特別支援教育の理解を深めた人材の育成に努めてもらいたい。
	前回評価	

## 基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

### 指標(4) 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
<p>全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「将来の夢や目標を持っている」という質問に「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合。</p> <p>将来の夢や目標を描ける児童生徒を増やすことが児童生徒の学校生活への意欲や主体性の向上につながることから、この指標を設定した。</p>	<p>夢や目標を持つ児童生徒を増やすことが児童生徒の学校生活への意欲や主体性の向上につながることからこの目標を設定した。</p>	<p>小学校6年生 83%</p> <p>中学校3年生 73%</p>	<p>小学校6年生 毎年前年度を上回る</p> <p>中学校3年生 毎年前年度を上回る</p>	36

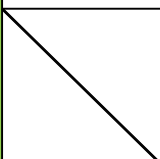
#### 令和3年度の実施状況

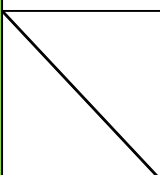
①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動や総合的な学習の時間、ライフスキル教育の指導について、学校訪問、要請訪問、教職員研修において実践例を交えた具体的な指導・助言を行った。小学校においては、児童一人ひとりの望ましい勤労観・職業観を育てる視点、話し合いを通じて多様な価値観に触れたのちによりよい意思決定をする視点について指導助言を行った。また、中学校においては、生徒が自ら生き方を考え、主体的に進路選択できるような指導方法について指導助言を行った。</li> <li>・川口市教職員研修「学級活動授業研修会」において、「キャリア・パスポート」をテーマとした研修を行った。児童生徒に目標を立てさせ、目標の振り返り、修正を行わせるための基本的な内容について指導助言を行った。</li> <li>・徳力向上推進委員会を中心として、「キャリア・パスポート」に関わる研修を進め、「キャリア・パスポート参考事例集」を作成し、全校に配布した。</li> </ul>
③実施結果	<p>小学校6年生においては、肯定的に回答した児童が81.4%、中学校3年生においては、肯定的に回答した生徒が70.6%だった。</p>

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の教職員研修において、学級活動の授業力向上を目指した実践的な研修を行う。</li> <li>・特別活動や総合的な学習の時間、ライフスキル教育の指導について、学校訪問、要請訪問、教職員研修において実践例を交えた具体的な指導・助言を行う。小学校においては、児童一人ひとりの望ましい勤労観・職業観を育てる視点、中学校においては、生徒が自ら生き方を考え、主体的に進路選択できるような指導方法について指導助言を行う。</li> <li>・徳力向上推進委員会を中心として、「キャリア・パスポート」に関わる研修を、令和3年度からの積み重ねを生かしながらさらに積極的に進めていく。</li> </ul>

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	小学校6年生 83% 中学校3年生 73%  ※令和2年度は 全国学力・学習 状況調査が中止 のため、令和元 年度の実績値を 上回ることを目 標とした。	小学校6年生 81.4% 中学校3年生 70.6% 前年度を上回る	小学校6年生 前年度を上回る 中学校3年生 前年度を上回る	小学校6年生 前年度を上回る 中学校3年生 前年度を上回る	小学校6年生 前年度を上回る 中学校3年生 前年度を上回る
	小学校6年生 81.4% 中学校3年生 70.6%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	令和元年度、令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果の比較より、将来の夢や目標を持っているかを問う質問事項において、小学校では、目標値に対して実績値81.4%とやや下回り、中学校においても目標値に対して実績値70.6%とやや下回る結果となった。小・中学校ともに目標値を概ね達成していることから評価結果はBとする。
	前回評価 	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合の実績値は、目標値を下回っているため、評価結果はBとする。 キャリア・パスポートを通して、児童生徒が将来を見つめ直す機会を作ることには、大変意義のあることだと考える。教員からのフィードバックやアドバイスを通して、児童生徒が目標にチャレンジする気持ちを育ててもらいたい。 また、キャリア・パスポートの家庭での利用を促進し、将来の夢や目標を持つ環境の醸成に努めてもらいたい。
	前回評価 	



## 基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

### 指標(5) 全国学力・学習状況調査の質問紙のうち、自尊感情、規範意識を示す割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
<p>全国学力・学習状況調査で実施している質問紙の中の「自分には、よいところがあると思いますか」「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合。</p> <p>自尊感情、規範意識を高めることが、豊かな心を育むことにつながることから、この指標を設定した。</p>	<p>小学校においては2項目とも市内平均は、全国平均を上回るものの県平均には及ばない状況である。中学校においては、「規則を守ること」について、依然、県及び全国を下回る状況であり課題となっている。よって引き続き全国平均より高い数値となっている県平均を基準とし、県平均を上回る目標値とした。</p>	<p>「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 78.2% 中学校 72.0%</p> <p>「学校のきまり(規則)を守っていますか」 小学校 92.9% 中学校 95.8%</p>	<p>「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 83% 中学校 75%</p> <p>「学校のきまり(規則)を守っていますか」 小学校 95% 中学校 97%</p>	36

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問、要請訪問、市教職員研修において、道徳教育、特別活動等、豊かな心の育成についての教員の指導力向上を図った。</li> <li>・「川口市道徳の日(10月9日)」の前後に市役所に各校の道徳教育に関する取り組みを掲示し、広く市民に発信し、道徳教育の充実を図った。</li> </ul>
③実施結果	<p>令和3年度実施の全国学力・学習状況調査の結果を令和元年度のものと比較すると(令和2年度は実施なし)、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について小学校では減少(78.2%⇒74.4%)、中学校では増加(72.0%⇒73.7%)が見られた。</p>

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市教職員研修において、3～7年次の教員を対象に道徳科の授業力向上を目指して、実践的な研修を実施する。</li> <li>・中堅教諭等資質向上研修において、受講者が道徳を研修する機会を設ける。</li> <li>・「川口市道徳の日(10月9日)」にあわせ、各校の道徳教育についての取り組みを掲示し、広く市民に学校での取り組みを発信する。</li> <li>・令和4・5年度の2年間を通して「ICTの特性を生かした『新たな学び～主体的・対話的で深い学びを通じた『自ら課題を解決する能力』の育成～』を研究テーマとし、実施した研究成果を市内の教職員に向けて発表し、道徳科の指導の充実を図る。</li> </ul>



集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 79% 中学校 73%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 80% 中学校 74%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 81% 中学校 74%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 82% 中学校 74%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 83% 中学校 75%
※目標の一部変更について  令和3年度の全国学力・学習状況調査の質問紙から、「学校のきまり(規則)を守っていますか」の質問が削除されたため、目標を「自分には、よいところがあると思いますか」のみに変更した。	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 74.4% 中学校 73.7%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	令和元年度の結果と比べると、小学校では減少、中学校では増加した。令和2、3年度の活動内容のみならず、コロナ禍による様々な社会の変化が要因として考えられる。令和2年度の結果と比較することはできないが、自尊感情を高めていくことは今後も本市の徳力向上の大きな課題の一つである。増加した中学校の数値も全国平均(76.2%)、県平均(76.8%)を共に下回っている。今後の取り組みを通じて、目標値に向けて着実に児童生徒の自尊感情を高めていきたい。評価結果は、中学校は目標値を上回ったが、小学校は目標値を下回ったため、Bとする。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	自尊感情を示す割合の実績値は、中学校で目標値を上回っているが、小学校では目標値を下回っているため、評価結果はBとする。 要請訪問の実施を通して、道徳の授業の進め方等を指導するなど、教員の指導力向上に取り組んでいることは理解している。 さらに自尊感情を育むため、道徳科の授業のみならず、学校教育活動全体の課題として取り組んでもらいたい。
	前回評価	

## 基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

### 指標(6) 各学年において「人権感覚育成プログラム」を活用した割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
<p>市内小・中学校の各学年において人権感覚育成プログラムを活用した割合。</p> <p>ここまで、人権感覚育成プログラムを校内研修に取り入れることで、人権感覚を育成する教員集団の育成に努めてきた。</p> <p>今後は研修を生かし、実践に移していくために本指標を設定した。</p>	<p>人権感覚育成プログラムを校内研修で活用した割合は100%となり、教員の意識は高まってきたものと考えられる。</p> <p>しかし、授業での活用となると100%ではなく、また全ての学年においての活用はされていないのが現状である。</p> <p>今後は計画的に人権感覚を育成することが求められることから、より徹底を図るために小学校では2学年ごと、中学校では各学年での活用の割合を目標値として設定した。</p>	<p>小学校 92.3%</p> <p>中学校 88.4%</p>	<p>小学校 第1・2学年 100%</p> <p>第3・4学年 100%</p> <p>第5・6学年 100%</p> <p>中学校 第1学年100%</p> <p>第2学年100%</p> <p>第3学年100%</p>	40

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	「人権感覚育成プログラム」を校内で実践するよう、人権教育主任研修会等の人権教育に係る研修会で周知をした。
③実施結果	令和3年度の実践状況について調査を行った結果、実践した割合は小学校では第1・2学年で71.2%、第3・4学年で88.5%、第5・6学年で98.1%、中学校では第1・2学年でそれぞれ57.1%、第3学年で67.9%となった。

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	令和3年度における「人権感覚育成プログラム」の活用状況について、人権教育に係る研修会等で周知し活用への意識を高めるとともに、人権教育における年間指導計画の見直しの際に、小学校では2学年ごと、中学校では各学年に具体的に「人権感覚育成プログラム」を加えるよう指導する。また、どのプログラムをどの学年で活用したか調査を行い、その結果を学校へフィードバックし、プログラムを活用しやすい環境を整える。

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	小学校 第1・2学年 70% 第3・4学年 70% 第5・6学年 70%  中学校 第1学年70% 第2学年70% 第3学年70%	小学校 第1・2学年 75% 第3・4学年 90% 第5・6学年 100%  中学校 第1学年70% 第2学年70% 第3学年70%	小学校 第1・2学年 80% 第3・4学年 100% 第5・6学年 100%  中学校 第1学年80% 第2学年80% 第3学年80%	小学校 第1・2学年 90% 第3・4学年 100% 第5・6学年 100%  中学校 第1学年90% 第2学年90% 第3学年90%	小学校 第1・2学年 100% 第3・4学年 100% 第5・6学年 100%  中学校 第1学年100% 第2学年100% 第3学年100%
	小学校 第1・2学年 71.2% 第3・4学年 88.5% 第5・6学年 98.1%  中学校 第1学年57.1% 第2学年57.1% 第3学年67.9%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	小学校では第3・4学年で88.5%、第5・6学年で98.1%と高い結果となったが、中学校では第1・2学年でそれぞれ57.1%、第3学年で67.9%と、7割未満の実績状況だったため、評価結果はBとする。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	「人権感覚育成プログラム」を活用した割合の実績値は、小学校は全学年で目標値を達成しているが、中学校では全学年で目標値を達成していないため、評価結果はBとする。 小学校と比較して、中学校の活用割合が低いことが気に掛かる。各学校が効果的に活用するためには、既の実施している状況を検証し、学年ごとにプログラム内容や実施時期を、市教委が具体的なカリキュラム例として示すなどの工夫を考えてもらいたい。
	前回評価	

## 基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

### 指標(7) 小児生活習慣病予防検診受診率の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
肥満度30%以上の児童生徒を、小児生活習慣病予防検診の対象者としているが、対象者が当該予防検診を受診し、あらためて自らの状況を自覚することが、糖尿病や高血圧など、生活習慣病の低年齢化が進むその要因である肥満の解消につながり、検診対象者が低減していくと考えられることから、この指標を設定した。	令和元年度実績の36%増とした。(厚生労働省が、児童生徒の肥満児割合の目標値を設定しているが、その数値を基に、小児肥満の児童割合を8%とし、その目標値をめざすため。) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     ※目標値の再設定について                      受診対象者の中1を含めた目標値として、下記の根拠とともに再設定するもの。                       『「健やか親子21(第2次)」の指標における肥満傾向児の割合目標は、小学校5年生のうち肥満度20%以上の児童の割合を令和6年度に7.0%とするのに対し、本市の令和元年度小学校5年生の肥満度20%以上の児童の割合は9.7%である。この数値を目標に近づけるために、小児生活習慣病予防検診の受診率の目標を60.0%とする。』                 </div>	59.1%  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">44.5% (小4、中1合算)</div>	80.7%  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">60.0% (小4、中1合算)</div>	42

### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 11. 6～R4. 1. 12 (全6回)
②実施内容	実施日：R3. 11. 6(土)／R3. 11. 20(土)／R3. 12. 22(水)／R3. 12. 23(木)／R4. 1. 7(金)／R4. 1. 12(水) 検査項目：肥満度・血圧測定・血液検査・医師等の相談 ※令和3年度は、従来の医師との相談に加え、家庭の食生活改善を促すよう栄養士による相談も併せて実施した。
③実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R3年度小学校4年生 (肥満度30%以上児童数) 231人 うち受診者156人 受診率67.5%</li> <li>・ R3年度中学校1年生 (肥満度30%以上生徒数) 264人 うち受診者 97人 受診率36.7%</li> <li>・ R3年度小4・中1計 (肥満度30%以上児童生徒数) 495人 うち受診者253人 受診率51.1%</li> </ul> ※令和元年度受診率 小学校4年生59.1% 中学校1年生32.0% 小4・中1計44.5% ※実施回数について 令和2年度に小児生活習慣病予防検診を実施できなかったため、令和2年度時点の小学校4年生児童及び中学校1年生生徒(=令和3年度小学校5年生児童及び中学校2年生生徒)のうち令和2年度または令和3年度の定期健康診断で肥満度30%以上の児童生徒も令和3年度の検診対象者とした。そのため令和3年度は実施回数を例年の2倍の6回としており、令和4年度は通常どおり実施回数を3回とする。

### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 11月～R5. 1月ごろ (全3回)
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	これまで検診日程はすべて平日であった。令和3年度に初めて全6回の日程のうち2回を土曜日に実施したところ、土曜日の受診希望者が多かったため、令和4年度は全3回のうち2回を土曜日実施とし、土曜日の開催割合を増やす。また、栄養士による相談も継続する予定である。 今後も検診受診を促す方法と受診対象者が生活習慣を見直すための工夫を考えたい。

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	47.6%	50.7%	53.8%	56.9%	60.0%
	51.1%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	令和3年度小児生活習慣病予防検診の受診率は51.1%であり、令和3年度の目標は達成されたため、評価結果はAとする。今後は、受診希望者が多かった土曜日の開催を増やすとともに、検診受診を促す工夫を考えたい。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>予防検診受診率の割合の実績値は、目標値を上回っていることから、評価結果はAとする。</p> <p>川口市の児童生徒の肥満傾向児（肥満度20%以上）の割合は、全国と比較して高い傾向にあるので、注意が必要だと考える。</p> <p>受診希望の多い土曜日の開催割合を増やすことで、生活改善を促し、意識の向上が図られることから、今後も継続してもらいたい。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(8) 体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合 (小学校6年生、中学校3年生)				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
各学校が実施している体力テストにおいて、全国平均を上回る項目数の割合。 客観的な基準により、各学校及び児童生徒一人ひとりに応じた課題解決への取り組みや体力向上の状況を示す数値であることから、この指標を選定した。	体力テスト男女合計16種目のうち、小学校6年生で9種目以上、中学校3年生で11種目以上の平均値が、全国平均を上回ることをめざして、この目標値を設定した。	小学校6年生 56%  中学校3年生 56%	小学校6年生 56%  中学校3年生 68%	44

令和3年度の実施状況									
①実施時期 R3. 4. 1～R4. 3. 31									
②実施内容									
測定項目 男女それぞれ8種目									
①握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横跳び ⑤20mシャトルラン ⑥50m走									
⑦立ち幅跳び ⑧ボール投げ									
※中学生は⑤「20mシャトルラン」については、「20mシャトルラン」か「持久走(男子1500m 女子1000m)」のどちらかを選択(川口市の中学校は全校で持久走を選択している)。									
・各学校において、課題となる種目を設定し、解決に向けての取り組みを実施した。									
・川口市体力向上推進委員会において、児童生徒の体力の分析・各学校の取り組みの紹介などをまとめた冊子を作成・配布し、その内容を啓発することを通して、各学校の体育授業や体育的活動の取り組みの充実へとつなげた。									
③実施結果									
※全国平均値と川口市平均値との比較									
市平均に○印がついている種目は、全国平均を上回った種目									
→小学校6/16種目、中学校9/16種目全国平均を上回った。									
	握力	上体起	長座体	反復横	20mシ	50m走	立ち幅	ボール	
小6		こし	前屈	跳び	ヤトル		跳び	投げ	
【男子】市	19.72○	22.21	37.99○	46.18	56.40	8'92	167.28○	22.47	
全	19.43	22.66	35.72	46.27	63.42	8'87	164.07	26.65	
【女子】市	19.42○	20.80	43.67○	43.85	45.58	9'19	159.43○	14.97	
全	19.23	20.84	41.02	44.19	51.56	9'15	156.01	16.38	
中3					持久走				
【男子】市	34.06	31.42○	53.87○	56.58	6'18	7'53	216.00○	24.35○	
全	34.46	29.93	49.16	56.66	6'06	7'45	214.74	23.69	
【女子】市	25.71○	26.76○	54.81○	49.40○	4'50	8'68	177.20	14.81○	
全	25.61	25.20	49.81	49.38	4'41	8'56	178.62	14.57	

令和4年度以降の取り組み									
①実施時期 R4. 4. 1～R5. 3. 31									
②見直し等が必要な事項、また見直した事項									
・引き続き、感染防止対策を講じて実施・報告を行う。									
・令和3年度川口市児童生徒体力向上推進委員会で報告された、市の重点課題種目(小学校:20mシャトルラン・ボール投げ 中学校:50m走・持久走)や各校での効果的な取り組み事例を周知し、令和4年度の体力向上へとつなげる。									

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	小学校6年生 56%	小学校6年生 56%	小学校6年生 56%	小学校6年生 56%	小学校6年生 56%
	中学校3年生 68%	中学校3年生 68%	中学校3年生 68%	中学校3年生 68%	中学校3年生 68%
	小学校6年生 38%				
	中学校3年生 56%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
		B
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
		B
	前回評価	

## 基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

### 指標(9) 高等学校卒業後、大学への進学者と国公立大学進学者の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
市立高等学校の卒業生のうち、現役生の大学進学者及び国公立大学へ進学した生徒の割合。 大学への進路指導を強く推し進めていくことからこの指標を設定した。	市立高等学校が、国公立大学進学型の教育課程を編成し、約90%の生徒が4年制大学進学希望であることから設定した。	令和元年度卒業生 4年制大学進学者 60.4%  国公立大学進学者 3.5%	大学進学者 95%  国公立大学進学者 15%	46

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31	
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人講師を常駐させ、グローバル社会に対応する教育の推進及び教育の充実を図った。</li> <li>大学等教育研究機関との連携による学習支援（放課後自習室・理数教育の充実、ICT授業サポート）を図り、生徒の学力向上に努めた。</li> <li>給付型奨学金をもとに、生徒の学力向上に努めた。</li> <li>ICT環境を整備し、1人1台端末が実現した。</li> </ul>	
③実施結果	令和4年3月 大学進学割合（大学進学者数／卒業生数） 78.0%（373人／478人）※R2年度80.2% 国公立大学進学率（国公立大学進学者数／卒業生数） 9.2%（44人／478人）※R2年度7.5%	※＜参考＞ ・4年制大学合格者延べ数 R2年度451人 → R3年度567人 ・国公立大学合格者延べ数 R2年度35人 → R3年度50人 （内過年度卒業生6人）

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度に実施した内容は継続する。</li> <li>令和4年度より指定のスーパーサイエンスハイスクール校としての取り組みを通して、より高度な教育課程を開発し、我が国の理数教育の発展をけん引する。</li> </ul>



集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	大学進学者 85%	大学進学者 85%	大学進学者 89%	大学進学者 92%	大学進学者 95%
	国公立大学進学者 10%	国公立大学進学者 11%	国公立大学進学者 13%	国公立大学進学者 14%	国公立大学進学者 15%
	大学進学者 78.0%				
	国公立大学進学者 9.2%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	4年制大学及び国公立大学の志願者数が増加したことにより、合格者延べ数及び国公立大学への進学者数は増加したものの、進学率が下がったため、目標値に届かなかった。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>大学への進学者と国公立大学進学者の割合の実績値は、目標値を下回っているため、評価結果はBとする。</p> <p>大学合格実績を着実に積み上げており、大学合格者及び国公立大学合格者数が昨年度より増加したことは高く評価できる。</p> <p>スーパーサイエンスハイスクール校として指定されたことは、大変名誉なことである。これからは、指定校としての実績を積み上げていくだけでなく、卒業生や在校生の愛校心を育む学校づくりにも取り組んでもらいたい。</p>
	前回評価	

## 基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

### 指標(1) 教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
採用2年次～4年次の教員における教育研修生研修「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合。 経験豊富な教職員の大量退職期に伴う若手教員の増加により、一層の資質向上が必要であることから、この指標を設定した。	本研修は、意欲が高く、且つ学校長の推薦を受けた教員に対して行う研修である。2年次以降の研修の機会を確保し、各教科等における指導法や学級経営等の資質向上を目標としている。このことから2年次～4年次の間に教育研修生研修「教育指導パワーアップ研修」の70%の受講をめざし、この目標値を設定した。	47%  2年次～4年次の 教員数350名  研修受講者数 165名	70%	54

### 令和3年度の実施状況

①実施時期	7月7日・8月4日・10月・12月21日・1月27日
②実施内容	<p>第1回 7月7日 教育研究所 ①講義「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」 ②グループ協議</p> <p>第2回 8月4日 オンライン ①講義「アクションリサーチの手法を用いた自己研修の進め方」 ②グループ協議、研究の手立て</p> <p>第3回 10月 ・各学校での研究授業</p> <p>第4回 12月21日 オンライン ・研究テーマに基づいた個人の実践発表</p> <p>第5回 1月27日 オンライン ・実践発表</p>
③実施結果	<p>令和3年度の研修対象者322名のうち、本研修を受講した教員は160名であり、受講率は49.7%となった。</p> <p>研修の満足度調査では、「十分満足できた」「概ね満足できた」を併せると全回とも90%を超える値であり、満足度は高かった。</p>

### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	7月～1月(全5回)
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じて(オンライン開催も含め)、開催回数5回を継続する。</li> <li>教科、領域によって人数に偏りがあったため、事前のアンケートを生かし、充実したグループ研修となるように研修内容を見直す。</li> </ul>

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	50%	60%	70%	70%	70%
	49.7% 160名／322名				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>令和3年度の研修対象者322名のうち、本研修を受講した教員は160名であり、受講率は49.7%となった。</p> <p>目標値を超えることはわずかにできなかったが、指標設定時の47%と比較すると向上傾向にあるため、評価結果はBとする。</p> <p>研修の満足度調査では、「十分満足できた」「概ね満足できた」を併せると5回とも90%を超える値であり、満足度は高かった。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合の実績値は、目標値を0.3%下回っているが、オンライン開催を初めて実施したことなどを考慮し、評価結果はAとする。</p> <p>若手教員に色々な気付きを得てもらうためにも、研修の機会を確保するのは非常に重要だと考える。</p> <p>1年間で全5回の受講が必要な現在の研修方法は、各学校や受講を検討している教員にとって、負担になっているのではないかと推察する。2～3年をかけて、全5回の研修を受講できるようにするなど、教員が受講しやすくなるような配慮を考えてもらいたい。</p>
	前回評価	

## 基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

### 指標(2) いじめの解消率

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
いじめ認知件数に対する解消率（翌年度6月末実績値）。 いじめは重大な人権侵害であり、決して許されるものではない。いじめの解消に向けて、早期発見・早期対応をすることが重要であることからこの指標を選定した。	一人ひとりの児童生徒にとって、明るく安心して学べる学校であるためには、認知したいじめを全て解消することが不可欠であるため、この目標値を設定した。	小学校 94.1%  中学校 93.2%	小学校 100%  中学校 100%	60

### 令和3年度の実施状況

①実施時期 R3. 4. 1～R4. 3. 31

②実施内容

「いじめ認知件数月例報告」により、各小・中学校におけるいじめの認知件数を毎月集約し、実態把握に努めるとともに、必要に応じて、学校への聴き取りや生徒指導担当指導主事が学校を訪問し、いじめの解消に向けた指導・助言を適時に行い、いじめ問題の解決に向けて各学校を支援した。

また、いじめ問題に対して法やガイドラインに則り、組織的に対応していくことなどを「いじめ対応教員研修会」等、各種研修会を通して周知・徹底を図った。併せて、いじめ防止対策推進法に基づく適切ないじめ認知及び対応の在り方について一層の意識の向上を図るため、1月に臨時のいじめ対応教員研修会を開催した。

また、児童生徒が主体となり「いじめゼロ活動」を行うことで、各学校においていじめを許さない気運を醸成し、いじめの根絶を目指した。

③実施結果

令和3年度のいじめの認知件数は、小学校4,609件、中学校851件で、いじめの解消率は令和4年6月末において小学校が91.6%、中学校が88.8%だった。

いじめの認知件数は増加傾向にあるが、各学校が「いじめの定義」に基づき、積極的にいじめを認知し、早期対応・早期解決に向けて組織的に取り組んでいることが伺えた。解消率は小・中学校とも低下傾向となっているが、3か月経過後も経過観察及び継続指導を丁寧に行っている。各学校において、いじめ問題の情報を組織で共有しており、全ての事案を組織で対応する意識が高まっている。

### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期 R4. 4. 1～R5. 3. 31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

児童生徒のいじめの予防と青少年健全育成を図る取り組みとして「いじめ予防ピンクピンバッジ」の着用を実施する。各学校の児童会役員、生徒会役員が着用し、いじめの予防を呼びかける。着用期間は、6月、9月、11月、2月である。また、いじめゼロサミットを年2回開催する。

「いじめ対応教員研修会」における指導内容を、これまでの法的な知識や法に基づく対応を中心としながらも、教職員や学校の実践力の向上を図るため、各学校において実際に対応した事例を集約した「いじめ対応事例集」を作成する。

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	小学校 100%	小学校 100%	小学校 100%	小学校 100%	小学校 100%
	中学校 100%	中学校 100%	中学校 100%	中学校 100%	中学校 100%
	小学校 91.6%				
	中学校 88.8%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
		C
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
		C
	前回評価	

## 基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

### 指標(3) 不登校児童生徒の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
<p>全児童生徒数に対する不登校児童生徒の割合。</p> <p>平成27年度以降、少しずつ改善が図られてきたが、平成29年度から不登校傾向の割合が増え続けている。このことから不登校児童生徒を減少させることが喫緊の課題であると捉え、学校や関係機関と連携を図りながら現状値からの改善を進めることをめざし、本数値を設定した。</p>	<p>適切なサポートにより、不登校児童生徒の減少をめざすため「現状値を下回る」とした。</p>	<p>小学校 0.74%</p> <p>中学校 4.25%</p>	<p>現状値を下回る (前年度を下回る)</p>	62

#### 令和3年度の実施状況

- ①実施時期 R3. 4. 1～R4. 3. 31
- ②実施内容  
各学校から報告のあった月例不登校調査に基づき、不登校並びに不登校傾向にある児童生徒がおり、生徒指導上の課題がある学校に対して、生徒指導担当指導主事による学校訪問を実施し、指導・助言を行った。また、学校・市教委双方が不登校児童生徒の状況を共有し、不登校解消に向けた効果的な手立てを講じ、早い段階で対応することによって、不登校児童生徒数の減少に努めた。
- ③実施結果  
令和3年度末における不登校による欠席日数が30日以上ある児童生徒数（病気・経済的な理由・その他による欠席は除く）は922人で、小学校では254人（全体の0.86%）、中学校では668人（全体の4.81%）であった。

#### 令和4年度以降の取り組み

- ①実施時期 R4. 4. 1～R5. 3. 31
- ②見直し等が必要な事項、また見直した事項  
各学校から報告のあった月例不登校調査に基づき、不登校並びに不登校傾向にある児童生徒がおり、生徒指導上の課題がある学校に対して、生徒指導担当指導主事による学校訪問を実施し、指導・助言を行っていく。また、学校・市教委双方が不登校児童生徒の状況を共有し、不登校解消に向けた効果的な手立てについて、早い段階で対応することによって、不登校の解消に努める。また、なかなか登校に至らない児童生徒の学習保障のため、自宅におけるICT等を活用した学習の推進に努めていく。さらに、各校において「不登校解消取組シート」を作成し、小中連携を図りながら不登校児童生徒数の減少及び新しい不登校児童生徒の出現を防ぐ。

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	小学校 0.78%  中学校 4.02%  現状値を下回る (前年度を下回る)	小学校 0.86%  中学校 4.81%  現状値を下回る (前年度を下回る)	現状値を下回る (前年度を下回る)	現状値を下回る (前年度を下回る)	現状値を下回る (前年度を下回る)
	小学校 0.86%  中学校 4.81%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	C	<p>不登校児童生徒の割合が昨年度より増加した。これは、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、学校での行事等の縮小や減少が起因したものと考えられる。また、オンラインにおける学習が充実していく一方で、オンライン学習で完結してしまう意識が増加している状況も憂慮されるものと捉えている。さらに不登校に陥ってしまった背景や原因を分析し、新たな不登校児童生徒を生まないための取り組み・支援方法の改善が重要であると認識している。今後、学校だけの支援には限界があることから、学校と家庭との連携を密に行うことの重要性について指導を充実させるとともに、関係諸機関との連携が図りやすい環境の整備と、実行力のある体制を確立していく。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	C	<p>不登校児童生徒の割合の実績値は、目標値に達していないため、評価結果はCとする。</p> <p>児童生徒が、オンライン授業に参加しても、登校とはカウントされず、実績値の向上には繋がらないものの、学校とのかかわりを作ることができている点は評価できる。</p> <p>不登校については、さまざまな理由があることは承知しているが、組織的な対応方法について検討し、各学校が対処しやすくなるようにしてもらいたい。</p> <p>また、新たな不登校児童生徒を生み出さないための予防に力を入れることが必要と考える。</p>
	前回評価	



## 基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

### 指標(4) 不登校児童生徒への指導の結果、好ましい変化がみられた割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
<p>文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等児童生徒指導上の諸課題に関する調査」における不登校生徒の中で支援の結果好ましい変化がみられた生徒の割合。</p> <p>不登校に対する社会の見方が「問題行動」から「理解し受容するもの」へと変化していることから、学校が行っている不登校児童生徒への支援において、社会的に自立するための力を身に着けることが必要であるため、この指標を選定した。</p>	<p>中学生という心身ともに不安定な思春期の不登校生徒に対し、学校は様々な支援策を考え、他機関と連携しながら対応を行っている。不登校は「誰にでも起こり得るもの」とはいえ、何らかの好ましい変化をめざしていることから、この目標値を設定した。</p>	<p>中学校 38.5%</p>	<p>前年度を上回る</p>	<p>62</p>

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	<p>各学校から報告のあった月例不登校調査に基づき、不登校並びに不登校傾向にある児童生徒がおり、生徒指導上の課題がある学校に対して、生徒指導担当指導主事による学校訪問を実施し、指導・助言を行うとともに、学校・市教委双方が不登校児童生徒の状況を共有し、不登校解消に向けた効果的な手立てを講じ、早い段階で対応することによって、不登校児童生徒数の減少に努めた。</p> <p>また、スクールソーシャルワーカーの活用を図り、家庭及び学校関係者への適切な支援を行えるようにした。</p>
③実施結果	<p>指導の結果、登校の頻度が増したり、全く登校できなかったが登校できるようになったりしたのは、小学校で54人（不登校児童の21.3%）、中学校では146人（不登校生徒の21.9%）であった。</p>

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>各学校から報告のあった月例不登校調査に基づき、不登校並びに不登校傾向にある児童生徒がおり、生徒指導上の課題がある学校に対して、生徒指導担当指導主事による学校訪問を実施し、指導・助言を行っていく。また、学校・市教委双方が不登校児童生徒の状況を共有し、不登校解消に向けた効果的な手立てを講じ、早い段階で対応することによって、不登校解消に努める。なかなか登校まで至らない児童生徒においては、学習保障を含め、自宅におけるICT等を活用した支援を推進していく。加えて、各校において「不登校解消取組シート」を活用し、不登校児童生徒数の減少及び新しい不登校児童生徒の出現を防ぐ小中連携を充実させる。さらに、スクールソーシャルワーカーを積極的に活用し、家庭及び学校関係者への適切な支援が行えるようにしていく。</p>



集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	中学校 29.0% 前年度を上回る	中学校 21.9% 前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る
	中学校 21.9%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	C	<p>指導の結果、登校できるようになった生徒数の割合は前年度より減少した。これは、不登校生徒の状況や家庭（保護者）の教育に対する考え方に変化が生じてきたことが要因と考えられる。教育委員会としては、学校に登校できない原因をさらに分析し、個に応じた支援を、学校と家庭が一体となって取り組む必要があると認識している。さらに、新たな不登校生徒を出さないための取り組みも促進していく必要があると考えている。不登校には多様な要因があることから、学校現場のみでの対応が困難になってきているため、学校と関係機関との連携を一層充実させ、より支援的な取り組みが充実した環境を作っていく必要があると考えている。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	C	<p>不登校児童生徒への指導の結果、好ましい変化がみられた割合の実績値は、目標値を下回っているため、評価結果はCとする。</p> <p>実績値をみると、一度不登校になってしまうと、その状態が継続してしまう現状があると考えられる。そのため、関係諸機関との連携について、組織的に確立し、未然に防ぐ取り組みを進めてもらいたい。</p> <p>また、数値のみに固執することなく、児童生徒の将来や進路に繋がるような指導をしてもらいたい。</p>
	前回評価	

## 基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

### 指標(5) 地域の方に勉強や運動を教えてもらっていると 感じている児童の割合 (小6)

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
<p>埼玉県学力・学習状況調査における児童質問紙調査「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、いっしょに遊んでもらったりすることがありますか」への好意的回答をしている児童の割合。</p> <p>子どもの成長をサポートする基盤づくりに向けて、学校だけではなく家庭・地域にもより積極的に関わってもらう必要性を感じ、その成果をみとるために埼玉県学力・学習状況調査における児童質問紙の本項目を指標として設定した。</p>	<p>コミュニティ・スクール等の活動を通して5年間をかけて基盤の整備推進を図り、現状値を上回ることをめざし設定した。</p>	41.8%	現状値を上回る (前年度を上回る)	68

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポートプランを活用しながら、社会科、生活科、家庭科、総合的な学習の時間、クラブ活動等で地域の方、保護者、学生ボランティアを招き、地域や家庭と連携・協働して授業を行った。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域の方との関わりをもつことが難しい状況であったが、GIGAスクール端末を活用したり、感染防止対策を講じたりしながら、各学校で工夫して取り組んだ。</li> </ul>
③実施結果	<p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域の方に勉強や運動を教えてもらう機会が減少したため、指標設定時の41.8%を下回ってしまった。しかしながら、令和3年度はGIGAスクール端末を活用したり、感染予防対策を講じたりしながら各学校で工夫して取り組んだ結果、令和3年度の目標値39.1%を上回り、着実に向上している。</p>

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でも可能な取り組みを研修等で周知する。</li> <li>地域の方とのかかわりを年間指導計画に位置付け、計画的に取り組むよう指導助言する。</li> </ul>

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	39.1% 現状値を上回る (前年度を上回る)	39.5% 現状値を上回る (前年度を上回る)	現状値を上回る (前年度を上回る)	現状値を上回る (前年度を上回る)	現状値を上回る (前年度を上回る)
	39.5%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域の方に勉強や運動を教えてもらう機会が減少した。しかしながら、GIGAスクール端末を活用するとともに、感染予防対策を講じた上で、児童生徒や地域の方の安全面を考慮し、各学校工夫して取り組んだ。成果として、少しではあるが、数値が上昇しつつある。評価結果は、令和3年度の目標を達成できていることからAとする。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	地域の方に勉強や運動を教えてもらっていると感じている児童の割合の実績値は、目標値を上回っているため、評価結果はAとする。 学校応援団などにより、ほとんどの児童が地域の方と関わってきたにもかかわらず、この結果は実態と比べて低いように感じる。 地域の方に対する感謝の気持ちを育むような教育が重要と考えるため、児童のために力を貸してくれている地域の方の気持ちを、児童が感じられるような指導をしてもらいたい。
	前回評価	

## 基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

### 指標(6) 地域・社会をよりよくするための参画意識 (中3)

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
<p>全国学力・学習状況調査生徒質問紙「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対して好意的回答を示している生徒の割合。</p> <p>子どもの成長をサポートする基盤づくりに向けて、学校だけではなく家庭・地域にもより積極的に関わってもらうことが、生徒にとっての参画意識の醸成につながると捉え、全国学力・学習状況調査における生徒質問紙の本項目を指標として設定した。</p>	<p>コミュニティ・スクール等の活動を通して5年間をかけて基盤の整備推進を図り、現状値を上回ることをめざし設定した。</p>	35.3%	現状値を上回る (前年度を上回る)	68

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育におけるボランティア、福祉教育を全教育活動の中に位置づけるとともに、各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動等と関連させた指導計画の活用、改善を図った。</li> <li>・学校と家庭・地域の人々や関係機関との連携を進めた。</li> <li>・中学校において、地域参画の活動として小学校のサマースクールやクラブ活動をサポートする取り組みを行った。福祉施設に訪問し地域のお年寄りとともに活動する計画をした中学校もあった。</li> </ul>
③実施結果	<p>令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果が34.3%であり、令和元年度の35.3%から1.0%下回る結果であった。新型コロナウイルス感染症により、地域へ出て活動することが困難な状況も影響していると考えられる。</p>

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年ボランティア育成事業について、紹介動画のQRコードを「令和4年度 指導の方向」に記載した。</li> <li>・コロナ禍においても工夫した取り組みを行った学校の実践を各学校に広めていく。</li> <li>・総合的な学習の時間等において、学習の成果を地域へ発信するような指導計画の作成について、指導助言していく。</li> </ul>

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	35.3%  ※令和2年度は 全国学力・学習 状況調査が中止 のため、令和元 年度の実績値を 上回ることを目 標とした。	34.3% 現状値を上回る (前年度を上回る)	現状値を上回る (前年度を上回る)	現状値を上回る (前年度を上回る)	現状値を上回る (前年度を上回る)
	34.3%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	令和3年度は34.3%の結果となり、目標値を1.0%下回ったが、概ね達成できているところから、評価結果はBとする。 各校において、工夫して地域・社会への参画意識を醸成する活動を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、体験を伴う活動を行うことが困難な状況であった。そのことから、生徒が「地域・社会をよりよくする参画意識」について実感ができなかつたと考える。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考える。」にとどまらず、「発信する・行動する」ような活動を推進する。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	地域・社会をよりよくするための参画意識の実績値は、目標値を下回っているため、評価結果はBとする。 地域の方からさまざまなサポートを受けてきた経験から、感謝の気持ちを育むだけではなく、自らも地域をよくするために何かをしようとする意識に繋げることが重要である。 地域活動への参加に加え、生徒に「地域のためにどのようなことができるか」という意識を持たせる指導に努めてもらいたい。
	前回評価	

## 基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(7) 各学校における「学校応援団平均活動回数」(年間)				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
市内小・中学校の各学校の学校応援団の1校当たり年間の平均活動回数(安心安全見守り活動を除く)。さらなる活動内容の充実が、学校・家庭・地域の教育力の向上につながることから、この指標を設定した。	登下校の見守り活動については、多くの活動回数があり定着しているが、学習支援や地域活動と連携した活動などその他の活動を充実させていく必要がある。年間の授業時数などを考慮し、令和7年度までに20回程度増やすことをめざして、この目標値を設定した。	小学校 122.8回  中学校 26.2回	小学校 140回  中学校 40回	68

### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3.4.1～R4.3.31
②実施内容	<p>学校応援団活動の安全な実施のため、傷害保険等に加入した。また、各学校に対して消耗品を購入し、学校応援団活動の促進を図った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各学校の学校応援団活動の機会が減ってしまったが、教室の消毒作業を実施する等、学校が求めている活動が実施できた。</p>
③実施結果	<p>学校応援団は、すべての小・中学校(78校)で設置されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校応援団活動の内容：学習活動への支援、学校の環境整備への支援、部活動・クラブ活動への支援、生徒指導への支援、環境教育への支援、学校ファームへの支援</li> <li>年間平均活動回数</li> </ul> <p>小学校：40.6回(安心安全見守り活動179.1回) 中学校：11.2回(安心安全見守り活動23.0回)</p>

### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4.4.1～R5.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>令和3年度より学校応援団は地域学校協働活動推進事業の一部として実施している。</p> <p>令和4年度には地域学校協働活動推進員を委嘱する予定である。推進員を活用することで、学校応援団がより幅広く活動できるようにしていく。</p>

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	小学校 128回  中学校 30回	小学校 131回  中学校 33回	小学校 134回  中学校 35回	小学校 137回  中学校 38回	小学校 140回  中学校 40回
	小学校 40.6回  中学校 11.2回				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	C	<p>昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い小・中学校ともに目標値に達しなかった。しかし、感染症の拡大により学校応援団が必要とされた活動（教室の消毒等）もあった。</p> <p>令和2年度と比較すると、年間平均活動回数は小学校では減少（48.8回→40.6回）、中学校では増加（8.8回→11.2回）した。評価結果は、目標値を下回っていることからCとする。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	C	<p>学校応援団平均活動回数の実績値は、目標値を大きく下回っているため、評価結果はCとする。</p> <p>新型コロナウイルス感染症への感染リスクを少しでも軽減するため、学校側が外部の人間との接触機会を減らしていた状況もあるため、活動回数が増加しなかったことは致し方ないとする。</p> <p>部活動への支援や緑化活動など、学校応援団の活動は学校運営においても重要である。コロナ禍が落ち着いたときに、活動が活性化できるように取り組みを継続してもらいたい。</p>
	前回評価	

## 基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

### 指標(8) 放課後子供教室の実施校数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
市内小学校において放課後子供教室を実施している校数。放課後子供教室実施校数の増加が、子どもたちの安全・安心な居場所の確保及び、幅広い地域住民等のさらなる参画につながることから、この指標を設定した。	放課後子供教室を市内全ての小学校で実施することをめざして、この目標値を設定した。	小学校 28校	小学校 52校	68

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	放課後子供教室未実施の小学校に生涯学習課の職員が訪問し、他校の放課後子供教室の活動内容などを周知するとともに、実施に向けて働きかけを行った。未実施の小学校24校中18校に訪問し、令和4年度からの実施に向けて準備を進められた。
③実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度から継続的に実施している小学校：28校</li> <li>令和3年度に新規で実施する小学校：0校</li> <li>令和4年度に新規で実施する小学校：5校（予定）</li> </ul>

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>委託先が一部の事業者に集中しており、今後は地域団体を中心とした受け皿の拡大が必要である。</p> <p>また、未実施の小学校については引き続き訪問するなど、継続的な働きかけを行う予定。</p>



集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校 43校	小学校 48校	小学校 52校	小学校 52校	小学校 52校
	小学校 28校				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	C	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、令和3年度中に新規で実施する小学校を増やすことはできなかったが、令和4年度に新規で実施する小学校を確保することができた。評価結果は、目標値を下回っていることからCとする。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	C	放課後子供教室の実施校数の実績値は、目標値を大きく下回っているため、評価結果はCとする。 目標値に対しての進捗率が、芳しくないことを懸念している。コロナ禍により、地域住民と子どもたちとの関係性が希薄化しているため、放課後子供教室の重要性は高まっていくものとする。 地域団体の規模など、学校それぞれの事情がある中で、事業を推進するのは難しいと推察するが、子どもたちと地域の関わりをより深めるため、積極的に推進してもらいたい。
	前回評価	

## 基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(1) 生涯学習施設の年間利用者数 ※南平文化会館を除く				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
市内公民館及び専門施設の年間利用者数。 今日的課題や市民ニーズに合わせた学習機会の提供とその成果を示すものとしてこの指標を選定した。	年間利用者数を、令和7年度までに3%増加をめざし目標値を設定した。	2,240,811人	2,308,035人	74

### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3.4.1～R4.3.31
②実施内容	生涯にわたり多くの市民の自発的・主体的な学習活動の拠点として、市内公民館及び専門施設の部屋を提供することで、地域社会における文化の向上や福祉・健康の増進を推進し、魅力ある多種多様な講座・教室を実施した。改修工事や新型コロナウイルス感染症の影響により、定員や利用時間の制限はあったものの、閉館期間がなかったことから、前年度と比較し、利用者数は増加した。
③実施結果	年間利用者は前年度と比較すると、306,785人増加した。  令和2年度利用者数 … 917,978人 令和3年度利用者数 … 1,224,763人  ※新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言等により、以下の措置をとった。 ・定員を半減：令和3年4月1日から10月30日までおよび令和4年1月22日から3月21日まで ・利用時間の短縮（午後7時まで）：令和3年4月20日から令和3年9月30日まで  ※新型コロナウイルス感染症の影響により、利用制限等を行ったため、年間利用者数については減少したが、公民館の重要な役割である「多様な学習機会の提供」「自発的な学習機会の援助」を行うため、令和3年度よりオンライン講座（動画配信）を実施した。 各公民館制作 13講座 視聴回数：2437回 生涯学習課制作 7講座 視聴回数：2477回

### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4.4.1～R5.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	新型コロナウイルス感染症に十分配慮しながら、市民が自発的・主体的に学習活動ができる拠点を提供することはもとより、さらなる利用者へのサービス向上に努める。 また、利用頻度の低い、現役世代や若年層に向けてのオンライン講座をさらに充実させることで、公民館活動に興味を持ってもらい、施設の利用拡大に繋げていく。

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	2,263,219人	2,274,423人	2,285,627人	2,296,831人	2,308,035人
	1,224,763人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	C	利用者数の目標値を達成できなかった要因として、改修工事を行った施設があったことや、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年4月1日から10月30日までおよび令和4年1月22日から3月21日まで定員を半減にしたこと、および令和3年4月20日から令和3年9月30日まで利用時間を短縮（午後7時まで）したことなどが挙げられる。しかし、感染対策を行い、安心して利用できる環境を整備するとともに、現役世代や若年層に公民館活動に興味をもってもらうため、動画配信をするなど、利用者拡大に繋げる手立てを講じた。評価結果は、目標値を下回っていることからCとする。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	生涯学習施設の年間利用者数の実績値は、目標値を大きく下回っているが、ほぼ1年間、施設の定員を半減した影響が大きいと考えられるため、評価結果はBとする。 コロナ禍のため、生涯学習施設を利用する方が増加しないのは致し方ないと考える。オンライン講座を導入するなど、利用者の裾野を広げる取り組みは評価できるので、今後も引き続き注力してもらいたい。
	前回評価	

## 基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

### 指標(2) 公民館及び専門施設の年間講座参加者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
市内公民館及び専門施設主催の年間講座参加者数。 今日的課題や市民ニーズに合わせた学習機会の提供とその成果を示すものとしてこの指標を選定した。	年間利用者数を、令和7年度までに3%増加をめざし目標値を設定した。	216,107人	222,590人	74

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期 R3. 4. 1～R4. 3. 31

②実施内容

自己実現をめざす市民の多様な学習・活動意欲の高まりに対応するため、地域の特性や市民の要望を踏まえ、公民館及び専門施設において、魅力ある講座・教室を、対面だけではなくオンラインでも実施することにより、一般教養はもとより専門性の高い分野や現代的課題の学習機会を提供した。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、川口市民大学公開講座などは、昨年に引き続き実施できなかった。

③実施結果

公民館及び専門施設において主催した講座・教室および他部署との共催事業等の参加者数、事業数(講座数等)。

令和2年度講座参加者数 … 28,207人 事業数(講座数等) … 28事業

令和3年度講座参加者数 … 62,280人 事業数(講座数等) … 164事業

※うち令和3年度オンライン講座(動画配信)

総視聴回数(令和4年3月31日時点) : 2437回、講座数 : 13

※新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言等により、以下の措置をとった。

・定員を半減 : 令和3年4月1日から10月30日までおよび令和4年1月22日から3月21日まで

・利用時間の短縮(午後7時まで) : 令和3年4月20日から令和3年9月30日まで

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期 R4. 4. 1～R5. 3. 31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

公民館及び専門施設において、地域での課題や幅広い年齢層の学習ニーズを把握することで、さらに魅力ある多種多様な講座・教室を企画・実施する。また、利用頻度の低い現役世代や若年層に対しても、オンライン講座を推進することで、主催講座の参加者数の増加に取り組む。

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	218,267人	219,347人	220,428人	221,509人	222,590人
	62,280人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	D	事業数（講座数等）は令和2年度と比較し、136事業、講座参加者数が34,073人増加した。また、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較し、講座数や参加者数は減少しているが、オンライン講座の実施など、新たな形で講座を実施した。しかし、目標値を大きく下回っていることから評価結果はDとする。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	C	年間講座参加者数の実績値は、ほとんど達成されていないが、オンライン講座を導入するなど、コロナ禍に合わせた取り組みが実施できていることから、評価結果はCとする。 コロナ禍により、定員を減らしている講座もあるが、定員に達した人気のある講座について、追加開催していることは評価できる。今後もニーズに応える取り組みを継続してもらいたい。
	前回評価	

### 基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

#### 指標(3) 図書館年間利用者数(入館者数)

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
図書館資料貸出数で捉えると閲覧等の場合数値に含まれないため、利用者数(入館者数)とした。	平成26-30年度の5年平均増減率-1.7%を平成30年度実績値にかけたものを低位、平成30年度の実績値を現状維持としたものを高位とし、その中間値を算出した。	1,608,239人	1,687,752人	76

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期 R3.4.1~R4.3.31

②実施内容

新たな取り組みとして、7月から図書館公式YouTubeチャンネルを開設し、令和3年4月に移転新築した「前川図書館」と「中央図書館」の紹介動画を作成して図書館のPRを行った。また、10月より感染対策を講じておはなし会を再開し、各種講座等(「読み聞かせボランティア講座」、「点訳奉仕者研修会」、「音訳奉仕者研修会」)を開催した。さらに、読書週間に合わせた「ラッキーバッグ」など季節ごとに図書を展示する「テーマ展示」を実施したほか、他部署と連携し、「認知症サポーター養成講座」や「創業支援事例パネルの展示」、シリーズ「図書館で知る川口」等を実施した。

③実施結果

	R1	R2	R3
入館者数	1,608,239人	988,335人	1,380,848人
おはなし会参加人数	5,449人	155人	899人
移動図書館利用者数	3,812人	3,466人	4,462人
総貸出点数	2,719,133点	2,177,414点	2,908,381点

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期 R4.10月以降

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

図書館システム更新にあわせて、「電子図書サービス」と来館困難者への図書館資料を郵送する「宅配サービス」を開始する予定。

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	1,744,581人	1,730,007人	1,715,680人	1,701,596人	1,687,752人
	1,380,848人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館時間の短縮や閲覧席を縮小したことにより、入館者数は目標値を下回ったが、インターネットでの学習席の事前予約の実施や、学習席等にアクリルパネルを新たに設置して、感染対策を実施した上でサービスを継続できた。事業についても、事前申込制に変更して10月よりおはなし会を再開し、講座・研修会も感染対策を講じて開催した。さらに、インターネットを活用したサービスを拡充し、公式YouTubeチャンネルを開設して図書館のPR動画を公開したり、子どもの調べ方案内のパスファインダー『としょ★スタ』をホームページで公開し、コロナ禍における学習支援を実施した。また、他部署と連携した図書館サービスも実施できた。以上、安全を第一に考え、できる限りの図書館サービスの継続ができたことから評価結果をBとする。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>図書館年間利用者数の実績値は、目標値を下回っているため、評価結果はBとする。</p> <p>総貸出点数などコロナ禍前の状況に戻りつつあるのは、様々な取り組みを実施した結果だと考えられるため評価できる。なかでも、令和4年度導入予定の「電子図書サービス」や「宅配サービス」は、入館者数の増加には直接結びつかないものの、コロナ禍における新たな取り組みとして高く評価できる。今後も、利用者のニーズに応える取り組みを継続してほしい。</p>
	前回評価	

## 基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

### 指標(4) 科学館の年間利用者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
科学館における科学展示事業・天文台事業・プラネタリウム事業の参加者数、科学出張教室・太陽観測出張授業・夜間出張観望会などの館外事業参加者数。科学への市民の興味・関心を引く事業の充実や、博学連携をめざした理科教育への支援の成果を示すものとして、この指標を選定した。	科学館の平成30年度の利用者数を基準として、1%増の目標値を設定した。 ※令和元年度は、特別展を実施したことにより、平年に比べて大幅に利用者が増加したため、平成30年度を基準値とした。	198,959人	197,628人	78

### 令和3年度の実施状況

#### ①実施時期

R3. 4. 1～R4. 3. 31

#### ②実施内容

緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等により、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながらの運営となり、約8か月間定員削減での事業運営としながらも事業内容の充実を図った。

科学展示室は入場定員を100人とし、各事業も人数制限をした上での運営となった。プラネタリウムは160人定員を70人定員の投影とし、令和3年度も安全対策と事業継続と充実のバランスを考慮して実施した。

○科学展示事業…実験ショーや身近な素材を用いた工作を行う教室等の定期事業の実施。学校や地域・企業と連携して行う科学出張教室等の館外事業の実施。インストラクター委託事業による展示装置解説、科学教室の実施。学校等の学習利用。家でも科学に触れられるオンラインコンテンツ（学習支援コンテンツ・科学館YouTubeチャンネル）の提供。

○天文台事業…夜間観測会、特別観測会の実施。観測会の休止期間は「天文台夜間天体ライブ配信」等の実施。館外事業では学校等の依頼により太陽観測出張授業や夜間出張観望会の実施。

○プラネタリウム事業…一般投影（小学生～一般対象）、学習投影（小学校、幼稚園等）の実施。

○特別企画事業…職員の企画・立案による6月・7月期特別展「ウンコ展～？がつまったおとしモノ～」では、国立科学博物館のほか様々な団体と連携し、専門的展示物を揃えると共に、コロナ禍に対応できる新たな展示手法で内容の充実を図った。11月のサイエンスまつり期間は、環境部等と連携しSDGsをテーマにした展示を実施した。12月～2月期には、特別展業務委託による特別展「ぴかり～光であそぼう！光で学ぼう～」を開催した。

#### ③実施結果

○科学展示事業…科学展示施設入場者55,031人・館内事業参加者数29,236人・館外事業参加者数3,320人

○天文台事業…天文台ガイドツアー27人・夜間観測会199人・天文台夜間天体ライブ配信アクセス数4,814回・特別観測会223人・天文台特別ライブ配信アクセス数30,619回・太陽観測出張授業351人・夜間出張観望会68人・太陽観測実習等211人

○プラネタリウム事業…プラネタリウム観覧者数25,962人・天文出張授業21人

○特別企画事業…25,315人

※緊急事態宣言・まん延防止等重点措置等により、令和3年4月20日から10月30日・令和4年1月21日から3月21日まで定員削減での事業実施とした。

### 令和4年度以降の取り組み

#### ①実施時期

R4. 4. 1～R5. 3. 31

#### ②見直し等が必要な事項、また見直した事項

科学展示室における一部の定期事業については、感染症対策としてイベントスペースの配置及び運営方法を変更したことから、コロナ禍以前の定員を見直し、新たな定員・実施時間での事業とする。

令和3年度に新たに実施した学校連携事業である出張特別展については、さらにパネル展示の貸出を本年度より開始し、継続事業として今後も実施することで、理科教育の充実を図る。

また、天文台事業の夜間観測会は予約制とし、狭い空間での事業であることから、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、定員等の見直しを図る。



集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	189,916人	191,816人	193,734人	195,671人	197,628人
	139,964人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等により、約8か月間にわたり定員削減での事業運営だったため、目標値を超えることはできなかった。</p> <p>科学展示事業は、平日の学校利用の多くが休止又は制限して実施したことから、平日の来館者数はコロナ禍以前と比較すると減少となるが、6、7月期の特別展「ウンコ展」については、入場制限下でありながら、同時期に実施したこれまでの特別展と比較し、開館以来最高の来場者数を記録した。また、新たに浦和工業高校と連携した「2足歩行ロボット講座」が開設できた。プラネタリウム事業は、小学校低学年向けのキッズアワーを、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が解除された期間に一時再開することができ、天文台事業でも、夜間観測会を一時再開することができた。夜間観測会の中止の期間にはインターネットを活用した天文台夜間天体ライブ配信等を実施し、5月の皆既月食はアクセス数が19,519回となり、令和3年度のアクセス数は令和2年度の2倍以上で多くの方に天文現象の情報を提供することができた。</p> <p>このように、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、専門性の高い事業を展開したことにより、定員削減期間があるにも関わらず、利用者を確保できたこと。ライブ配信のアクセス数を含めた利用者数は175,397人となり、目標値に近い実績をあげることができたことから、魅力ある科学館づくりができていたものとし、評価結果はBとする。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>科学館の年間利用者数の実績値は、目標値を下回っているため、評価結果はBとする。</p> <p>ロボット講座など興味を持ちやすい講座を開催することで、科学をわかりやすく、親しみやすいものとして広める努力を続けていることは評価できる。</p> <p>科学は難しいというイメージを持たれやすいので、さまざまな企画を実施することで、科学に慣れ親しむ人の裾野を広げてもらいたい。</p> <p>また、学習支援として、学校現場への協力を続けているが、その取り組みがすべての教員には周知されていないように感じる。広報の方法を改めて検討し、子どもたちにとって、科学館の事業をより身近に感じてもらえるように努めてもらいたい。</p>
	前回評価	

## 基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

### 指標(5) スポーツ施設の年間利用者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
市民のスポーツ・レクリエーションに対するニーズや健康に対する意識も高まっており、スポーツ活性化を促進し、健康・体力づくりやスポーツ人口の拡大を示すものとして、この指標を選定した。	令和元年度の現状値に、新型コロナウイルス感染症防止対策等に伴う施設休止による減少分を加算したものを低位、施設の大規模改修等による施設休止を行う以前の平成28年度の施設利用者数を高位とし、その中間値を目標値とした。	2,154,439人	2,366,171人	80

### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	<p>利用者の健康・体力づくりやスポーツに対する需要に応えるため、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、スポーツ施設を利用者の自主的なスポーツ活動の場として提供するとともに、スポーツ教室の開催やスポーツ施設の無料開放などスポーツに触れる機会を提供した。また、スポーツ施設の整備・充実を図るため、東スポーツセンターのプール天井改修工事や青木町公園総合運動場陸上競技場走路改修工事などの大規模改修を計画的に実施し、安全かつ安心な施設として利用者に提供した。スポーツ少年団の活動支援のため、スポーツ少年団に登録している各団の情報を市ホームページに掲載した。</p>
③実施結果	<p>大規模改修工事等が完了し再開した施設があった一方で、施設改修工事及び新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により施設利用ができない期間があったため、目標値を下回った。</p> <p>※令和2年度の工事が完了したことにより再開した主な施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東スポーツセンター（体育館床板補修工事） 令和2年10月～令和3年1月（工事期間）</li> <li>・安行スポーツセンター（プール天井改修ほか工事） 令和2年10月～令和3年3月（工事期間）</li> <li>・鳩ヶ谷スポーツセンター（前田西野球場防球ネット設置工事） 令和2年12月～令和3年3月（工事期間）</li> </ul> <p>※令和3年度に工事を実施したことにより休止をした主な施設及び期間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青木町公園総合運動場（陸上競技場走路補修工事） 令和3年12月～令和4年2月まで休止</li> <li>・東スポーツセンター（プール特定天井等改修工事） 令和3年 8月～令和4年3月まで休止</li> <li>・戸塚スポーツセンター（プールサイドベンチほか工事） 令和3年12月～令和4年2月まで休止</li> </ul> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による施設の利用時間の短縮期間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年4月20日～令和3年9月30日</li> </ul> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による施設の利用制限期間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年4月20日～令和3年9月30日</li> <li>・令和4年1月21日～令和4年3月21日</li> </ul>

### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じたうえで、利用者の健康・体力づくりやスポーツに対する需要に応え、今後も安全・安心にスポーツ・レクリエーション活動が実施できる場として施設を提供するため、施設の計画的な改修及び設備の更新を行う。また、スポーツ関係団体が開催する大会等の会場確保等を支援し、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」機会の提供を継続して取り組むことに努める。</p> <p>また、目標値については、市の施設である以上、少しでも多くの市民に利用してもらい利用者数を増やす努力をする責務があることから、さらに各施設毎に目標値を定め、前年度の利用者と比較し、増減数の分析を行い、利用者数の増加及び稼働率の改善に努める。</p>

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	2,225,015人	2,260,304人	2,295,593人	2,330,882人	2,366,171人
	1,673,570人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による施設の利用時間の短縮や利用制限、東スポーツセンタープール天井改修等改修工事をはじめ施設の設備改修に伴い休館期間が生じたことにより、利用者数が目標値を下回った。</p> <p>しかしながら、安全・安心にスポーツ・レクリエーション活動が行えるように設備や器具等の消毒及び施設内の十分な換気など感染対策を実施したことにより、前年度に比べ利用者数は増加傾向にあることから、評価結果はBとする。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>スポーツ施設の年間利用者数の実績値は、目標値を下回っているため、評価結果はBとする。</p> <p>屋内の体育施設については、換気等の問題があり、コロナ禍においてクラスターの発生が懸念されるなど、積極的な利用の促進は難しいと考える。</p> <p>しかしながら、スポーツに対する需要は非常に大きいので、感染対策を充実させながら、市民がスポーツに触れる機会を創出してもらいたい。</p>
	前回評価	

## 基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

### 指標(6) 文化芸術事業に携わる団体・個人の数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
文化芸術活動を担う人材の育成を促進するにあたり、実態を捉える数値として、設定した。	文化芸術団体の会員のほか、審議会等の委員、イベントの出演者、展覧会の出展者、ワークショップの講師等として、本市文化芸術事業に携わる団体・個人の数毎年増加させることを目標とした。	1,582人	前年実績値の2%増	84

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期 R3. 4. 1～R4. 3. 31

②実施内容

「川口市文化祭」「川口市美術展」「川口市文化賞」「ピアノコンクール」「ワークショップ・講座等」「貸し館事業」などの事業を実施し、市民の文化芸術活動の支援や、人材の育成に努め、文化芸術に携わる団体・個人の増加を図った。

主な取り組みとしては、「ワークショップ・講座等」の事業は、すべて前年度とは異なる新たな企画を実施し、講師の裾野を広げた。また、「貸し館事業」では、施設の活用事例を掲載した貸しギャラリー用のパンフレットを近隣市及び都内の画材店に直接持参し、利用者の新規開拓に繋がるよう働きかけを行った。

③実施結果

令和3年度文化芸術に携わる団体・個人の数：1,370人（個人：1,094人、団体：276団体）

※主な事業による実績値は下記のとおり

- ・川口市文化祭：文化祭参加団体 11団体（R1：19団体）
- ・川口市美術展：出品者：374人（R1：396人）
- ・川口市文化賞：川口市文化賞選考委員会委員：5人
- ・ピアノコンクール：出場者 237人（R1：240人）
- ・ワークショップ・講座等の講師：15人（14事業）
- ・貸し館利用者：個人 4人、団体 4団体（展覧会8件）
- ・アートギャラリーボランティアスタッフ：14人

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期 R4. 4. 1～R5. 3. 31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

一部事業では、入場者の範囲を見直し、市民の文化芸術に触れる機会を広げる予定。  
また、ワークショップ・講座等の事業は、様々な分野のアーティストを講師として招き、市民の文化芸術に触れる機会の提供に努めるほか、貸し館事業では、貸しギャラリー用のパンフレットを見直し、利用者がよりわかりやすいものに改善するとともに、積極的な広報・PR活動を展開し、文化芸術事業に携る団体・個人の増加に繋がるよう取り組んで行く。

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	1,646人  ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、実績値が701人だったため、令和元年度の実績値1,582人の2%増(1,614人)からさらに2%増を目標値とした。	1,397人 (前年実績値の2%増)	前年実績値の2%増	前年実績値の2%増	前年実績値の2%増
	1,370人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>新型コロナウイルス感染症にかかる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令が約8ヶ月間続いた中で、一部事業の中止や、一般入場者制限など感染防止策を講じての事業実施を通じ、文化芸術事業に携わる団体・個人の数は1,370人となった。指標設定時の現状値から算定した目標値1,646人に対しては、83.2%となっている。</p> <p>そうした中、「文化祭」参加団体や、「美術展」出品者数、「ピアノコンクール」応募者数など主な事業では、新型コロナウイルス感染症流行前の状態に戻りつつあり、市民の文化芸術活動を支援することができた。</p> <p>また、ワークショップ・講座等の事業は、すべて前年度とは異なる新たな企画を実施し、講師の裾野を広げるとともに、市民へアートの魅力を伝えることができた。貸し館事業では、施設の活用事例を掲載した貸しギャラリー用のパンフレットを近隣市及び都内の画材店に直接、持参し、利用者の新規開拓に繋がるよう働きかけするなど、人材育成の促進に努めたことから、評価結果はBとする。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>文化芸術事業に携わる団体・個人の数の実績値は、目標値を下回っているため、評価結果はBとする。</p> <p>主な事業の参加人数を過去5年分比較してみると、コロナ禍前に戻りつつあると考えられる。しかし、感染防止のため十分な練習ができず、川口市文化祭に参加できなかった団体がある等、新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続いているのが現状である。</p> <p>今後も、感染対策に留意しながら、文化芸術に触れる機会の提供や、PR活動を積極的に行うなど、目標値の達成に努めてもらいたい。</p>
	前回評価	

## 基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用

指標(1) 文化財センター及び分館への年間来館者数				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
文化財の調査・保存や伝統文化などの文化財情報を市民へ発信する場である常設展示・特別展示等において、情報を共有していただいた市民の人数として、この指標を設定した。	これまでの実績を踏まえ、約5,000人の増加を目標とする。	72,625人	77,500人	92

### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	文化財センター本館・分館において、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じた上で常設展を開催するとともに、市内小・中学校の社会科見学の受入や各種イベントを実施した。また、郷土資料館（分館）において、夏季と冬季に企画展を開催した。さらに、歴史教室（市内小・中学校を対象に、文化財課が所蔵する資料等を活用して郷土の歴史等を解説する事業）をオンライン中心で実施し、文化財資料を活用した学習支援コンテンツの配信も随時行った。
③実施結果	年間来館者数44,150人（文化財センター1,493人、郷土資料館4,627人、旧田中家住宅3,683人、歴史自然資料館34,347人） なお、オンライン事業を含めた各種イベントの参加者数は以下のとおりである。 ・企画展参加者数（本館・郷土資料館・歴史自然資料館）…9,693人 ・イベント参加者数（本館・郷土資料館・旧田中家住宅・歴史自然資料館）…4,710人 ・歴史教室参加者数…14,999人（オンライン8,880人、実地6,119人） ・社会科見学参加者数（本館・郷土資料館）…534人 ・学習支援コンテンツ（59個）視聴回数…YouTube動画18,333回（R2. 4. 1～R4. 4. 10） HP「おうちで博物館」3,758回（R3. 4. 1～R4. 3. 31）

### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	コロナ禍により依然としてオンライン事業の需要が高いことから、オンラインによる歴史教室やワークショップ、文化財資料を活用した学習支援コンテンツの配信等を継続して実施する。また、郷土の歴史や文化財の情報をより多くの人に提供するため、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で、企画展やイベントの充実を図ることにより、来館者の増加に努める。

集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	73,600人	74,575人	75,550人	76,525人	77,500人
	44,150人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
		C
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
		B
	前回評価	



## 基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用

### 指標(2) 古文書・写真等資料の収蔵点数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R7)	教育振興 基本計画 の頁
<p>解読・データベース化し活用されていく前提となる、古文書・写真等資料の収蔵(寄贈・寄託)されている数として、この指標を設定した。</p>	<p>これまでの実績を踏まえ、約500点の増加を目標とする。</p>	90,758点	91,250点	96

#### 令和3年度の実施状況

①実施時期	R3. 4. 1～R4. 3. 31
②実施内容	<p>資料所有者からの調査依頼により調査を実施し、寄贈・寄託の手続きを経て収蔵した。令和3年度はすでに収蔵する寄託資料の所有者からの寄贈1件、市内旧家からの寄贈1件、市内小学校からの寄贈1件の3件の依頼があり、江戸後期・明治・昭和年代の資料が寄贈された。</p>
③実施結果	<p>令和3年度は、市内旧家2件、小学校1件から寄贈を受けた。中央地区の旧家から昭和時代の鋳物工場の生産品、労働関係、工場経営等に関する資料。新郷地区に住んでいた旧家から家業の鍛冶職関係資料、江戸時代の新堀村や榛松村に関する資料、明治期の警察及び学校教育の関係資料等。本町小学校から耐火金庫に収納していた本町小学校調書、学校関係綴書等の第二次世界大戦前後の資料を収蔵した。令和3年度は、3件の寄贈を受け、すでに収蔵済みの資料で寄託から寄贈となった1件を除く693点を新たに収蔵し、合計92,062点となった。</p>

#### 令和4年度以降の取り組み

①実施時期	R4. 4. 1～R5. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>令和3年度のようにまとまった資料が一度に寄贈されることもあるが寄贈数が減少する年度もあり、今後は古文書・古写真を寄贈する旧家及び所有者等の大幅な減少傾向が予想される。このことから将来的に数値設定は困難となるが、今後も市民からの資料に関する情報を堅実に把握し、資料の調査・収集・保管に努めるとともに、資料の活用を図るための展示会や講座の実施や、市民及び研究者、報道関係、各種団体等の事業、学校教育での学習教材としての資料提供を図る。</p>



集計年度	R3	R4	R5	R6	R7
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	90,856点	90,954点	91,052点	91,150点	91,250点
	92,062点				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	令和3年度は、特に中央地区の鋳物業に関する資料、新郷地区における江戸時代の地域資料や明治時代の警察及び学校教育資料、そして川口市の中心的学校である本町小学校に関わる第二次世界大戦前後の貴重な資料を収蔵した。とりわけ鋳物に関する豊富な資料群の寄贈を受けたことで、目標値より多くの資料を収蔵することができたことから評価結果はAとする。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>収蔵点数の実績値は、目標値を上回っているため、評価結果はAとする。</p> <p>令和3年度の実績値は令和7年度の目標値を上回っているため、目標値の再設定が必要だと考える。収蔵については予測を立てることが困難ではあるが、過去の状況などを参考に、適切な目標設定をするよう検討願いたい。</p> <p>古文書や資料については、貸出などを含め、積極的な活用を改めて考えてもらいたい。</p>
	前回評価	